

令和5年度厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
成人先天性心疾患に罹患した成人の社会参加に係る支援体制の充実に資する研究

分担研究報告書

成人先天性心疾患患者の運動機能や身体活動量の現状と
社会参加に及ぼす影響に関する研究

研究分担者 神谷健太郎（北里大学医療衛生学部 教授）

要旨

成人先天性心疾患（ACHD）患者は、近年の医療技術の発展により、多くの患者が適切な治療を受けることで長期生存が可能となっている。しかし、成人期に移行するにあたり、社会参加に伴う問題に対する支援や基盤となる体制が未整備であるのが現状である。特に、ACHD 患者の就労においては、高い運動負荷での労作が困難なことも多く、勤務時間や内容に関する制約があるため、経済的および精神的に QOL の低下を引き起こすことが懸念される。さらに、患者自身や就労先が安全な運動負荷やその予備力についての認識が曖昧であることが多く、適切な支援が求められている。

本研究は、成人先天性心疾患（ACHD）患者の社会参加の現状と関連因子を明らかにすることを目的としている。今年度は、これまでの知見の集約と雑誌特集号の出版、研究計画書の倫理委員会承認、全国心臓病の子どもを守る会との合意形成、実施スキームと外部委託業者の選定を完了した。次年度は、運動機能調査とアプリ導入、データ収集および解析を行う予定である。

研究協力者

内田 翔太

北里大学大学院 医療系研究科・一般研究員

野田 匠

北里大学大学院 医療系研究科・博士課程

小倉 健

北里大学大学院 医療系研究科・博士課程

鹿島 あゆ子

北里大学大学院 医療系研究科・修士課程

佐藤 薫

北里大学大学院 医療系研究科・修士課程

三木 隆史

北里大学大学院 医療系研究科・博士課程

椿 耀太郎

北里大学大学院 医療系研究科・修士課程

池田 桃子

北里大学大学院 医療系研究科・修士課程

中村 真唯

北里大学大学院 医療系研究科・修士課程

A. 研究目的

本研究の目的は、ACHD 患者における就労を含めた社会参加の現状と、その臨床的および社会的な背景因子や身体機能及び身体活動量との関連性を明らかにすることである。

る。また、これらの評価項目が QOL に与える影響についても前向きに調査し、ACHD 患者の社会参加を支援するための具体的なエビデンスを提供することを目指している。

B. 研究方法

1. 当該領域の最新の知見の集約と出版：研究分担者が編集委員を務める専門誌「心臓」で、ACHD を含む心臓病患者の就労を含めた両立支援の現状と課題に関する雑誌の特集号を組み、現状の把握と専門家への公知を行う。

2. 調査研究：本研究は、単施設前向き観察研究として実施する。

研究対象者は、

- ①北里大学病院に通院し、本研究に同意した 18 歳以上の ACHD 患者
- ②全国心臓病の子どもを守る会を通して研究参加に同意した 18 歳以上の ACHD 患者

外来診察時における身体機能評価を実施し、運動耐容能指標や筋力指標、活動量に関する指標を収集する。また、研究用アプリを導入し、日常生活における運動データを収集する。データは、運動機能や社会参加に関連する因子を明らかにするために解析する。

Web で説明と電磁的同意を行い、その後、アプリと Web アンケートを用いて、身体活動量、歩行速度などの身体機能、Web アンケートを用いた社会参加や QOL、身体機能に関する調査を実施。

(倫理面への配慮)

本研究の実施に当たっては、倫理委員会の承認を得て、書面または電磁的同意を得て実施する。

C. 研究結果

1. 倫理委員会承認

今年度、研究計画書を倫理委員会に提出し、承認を得た。これにより、研究の倫理的側面についての適正が確認され、計画通りの研究実施が可能となった。

2. 全国心臓病の子どもを守る会との会議と合意形成

全国心臓病の子どもを守る会の理事と複数回に渡り web 会議を実施し、その結果、会員へのメールを通じて本研究への参加を呼びかける合意を得ることができた。これにより、研究対象者のリクルートがスムーズに進むことが期待される。

3. 実施スキームと外部委託業者の選定

上記の研究実施スキームを策定し、必要な外部委託業者の選定を完了した。具体的には、研究実施における運営体制の構築と、外部からの支援を受けるための業者選定を行った。これにより、研究の円滑な進行為期待され、各プロセスにおいて専門的なサポートを受けることが可能となった。

北里大学病院通院中の ACHD 患者に対する身体機能評価は本邦の日常臨床では普及しておらず、当施設でもこれまで一部の患者を除いて実施していなかった。そのため、患者紹介のフロー同意、説明のながれ、実施場所の確保などを打ち合わせし、実現可能な研究実施フローを作成し、関係部署

に合意を得た。

4. 雑誌特集号の出版

雑誌「心臓」において、以下の通り特集を企画し出版した。本研究班の責任者及び分担研究者も本特集の執筆を行った。

循環器領域における仕事と治療の両立支援企画：神谷健太郎（北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科）

1. 循環器疾患の治療と仕事の両立支援の概要と多職種連携モデル

：Fit Note（両立支援意見書）による社会的処方箋の実装へ向けて

武藤 剛（北里大学医学部 衛生学/北里大学病院 トータルサポートセンター/北里大学病院 総合診療科）

宮本竜也 早坂由美子（北里大学病院 トータルサポートセンター）

2. 心臓リハビリテーションチームを主体とした両立支援の実践

一遠隔両立支援も含めて

中山敦子（榊原記念病院 循環器内科）

3. 心疾患の治療と仕事の両立お役立ちノートを活用

荻ノ沢泰司（産業医科大学 第2内科学・両立支援科）

4. 両立支援を必要とする心疾患患者の現状

小坂橋俊美（北里大学医学部 循環器内科学）

5. 職域における取組と企業一産業保健スタッフの実際

関塚宏光（富士通クリニック 内科/富士通株式会社 健康推進本部）

梶原隆芳（株式会社 梶原産業医事務所）

三宅 仁（富士通株式会社 健康推進本部）

D. 考察

今年度の成果は、研究の順調なスタートを切る上で重要なマイルストーンとなった。倫理委員会の承認を得たことで、研究の倫理的側面が担保され、計画に基づいた研究実施が可能となった。全国心臓病の子どもを守る会との合意形成により、ACHD 患者のリクルートが順調に進むことが期待される。また、実施スキームと外部委託業者の選定が完了したことで、研究体制が整備され、今後の研究進行が円滑に行われる基盤が整った。

次年度は、運動機能調査とアプリの導入を通じて、ACHD 患者の日常生活における運動データを収集する予定である。これにより、患者の運動機能や社会参加に関する詳細なデータが得られ、ACHD 患者の QOL 向上に向けた具体的な支援策の検討が可能となる。また、収集したデータを基に解析を行い、運動機能や社会参加に関連する因子を明らかにすることで、より実践的な支援策を提供するためのエビデンスを蓄積していくことが期待される。

E. 結論

次年度の計画を順調に進めることで、ACHD 患者の社会参加支援に資する具体的なエビデンスを提供することが期待される。

F. 健康危険情報

該当する情報はなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

雑誌特集号：循環器領域における治療と仕

事の両立支援：心臓 Vol 55. No 6. 2023（企画及び巻頭言：神谷健太郎）

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし